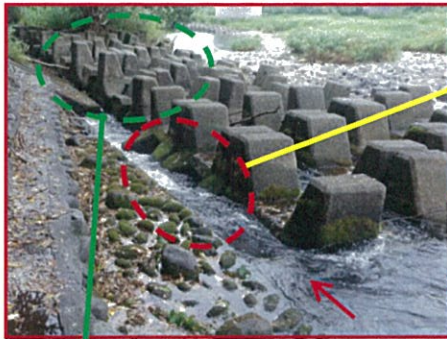
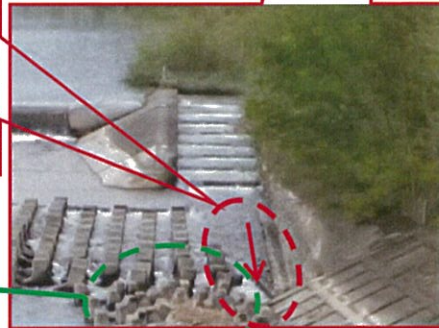


湯水時の取水堰下流の状況：H23.8.3



魚道入口にも落差があり、魚などがのぼりにくい状況となっている。



乱れた護床ブロックのため、遡上した魚が魚道の入り口を見つけれない



現地調査（瀬・淵および産卵床）

＜岩木川の瀬・淵の状況＞

従来の淵：19箇所 現在の淵：12箇所

従来の早瀬：7箇所 現在の早瀬：4箇所

（河川水辺の国勢調査結果より）

・瀬・淵が消失しつつある

安東橋付近



新鳴瀬橋下流



現地調査（瀬・淵および産卵床）

＜岩木川の瀬・淵の状況＞

従来の淵：19箇所 現在の淵：12箇所

従来の早瀬：7箇所 現在の早瀬：4箇所

（河川水辺の国勢調査結果より）

・瀬・淵が消失しつつある

清瀬橋付近



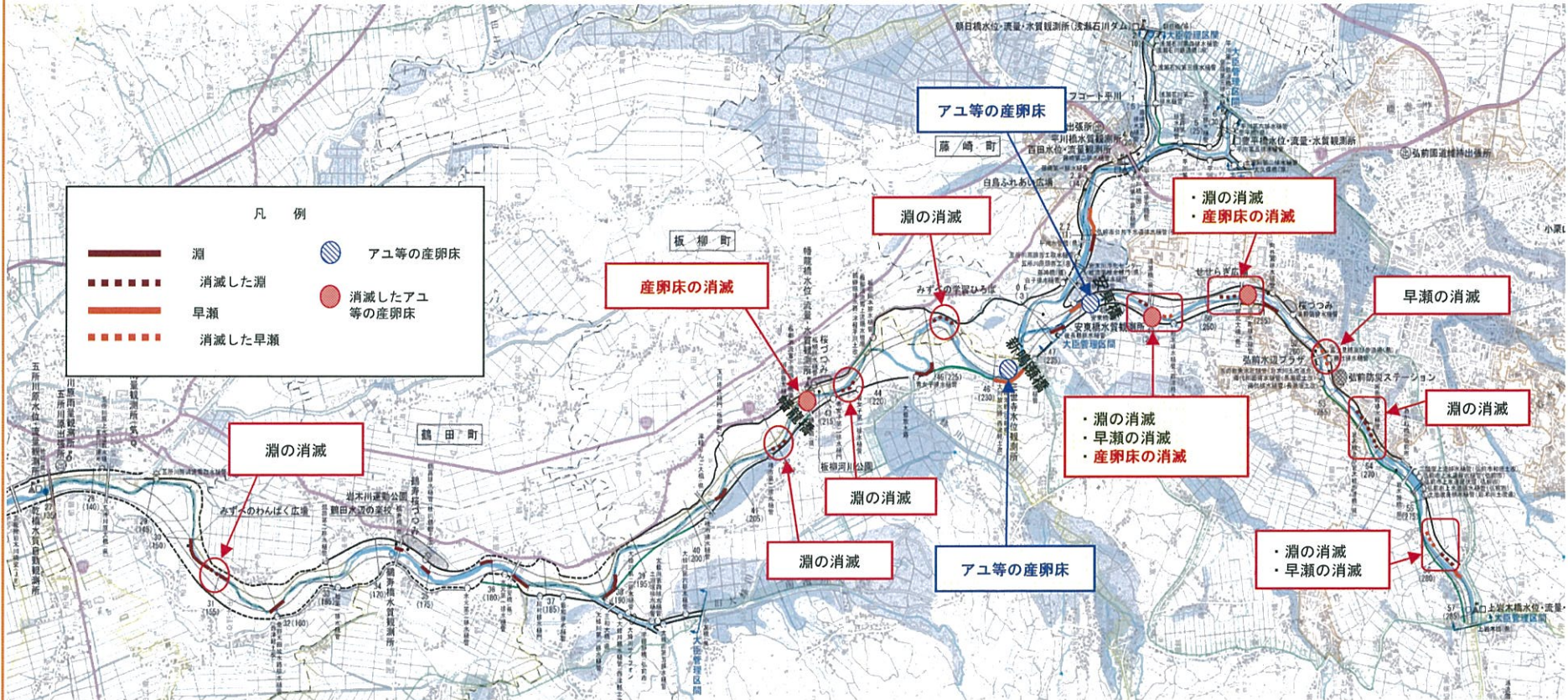
平成4年撮影



平成15年撮影

現地調査（瀬と淵、アユの産卵床の変遷）

- 平成5年以降の河川水辺の国勢調査やヒアリング結果より、幡龍橋上流の瀬と淵の数が、年々減少していることが確認されている。
- アユ等の産卵床は、過去には5箇所確認されていたが、内3箇所が消滅し、現在は2箇所が残っている。



＜岩木川の瀬・淵の状況＞
 従来の淵: 19箇所 → 12箇所
 従来の早瀬: 7箇所 → 4箇所
 従来の産卵床: 5箇所 → 2箇所